慶蔵院寺報
公孫樹
2022年10月発行
第129号
浄土宗慶蔵院
伊勢市小俣町元町1211
TEL0596（22）3726

２４日はお地蔵さんの日です。堤防の下のチカネバ地蔵さんや慶蔵院の身代わり地蔵さんにお参りして、南無阿弥陀仏と十回称えましょう。健康増進・当病平癒・家内安全を祈りましょう。「念ずれば花開く」です。

西里定一　作

身代わり地蔵尊への信仰を広げたい…

地蔵講には女性４名のメンバーがそろいました。男性詠唱隊との地蔵盆「初盆精霊送り」行事の連携も整ってきました。地蔵講のみなさんは第四水曜日の１時半からの御詠歌。男性詠唱隊のみなさんは、総勢１０名で夜７時半からの御詠歌・御和讃の練習、奉納供養を行っています。

いま地蔵堂の横に、辻井さんが井戸を掘ってくれています。井戸掘りの研究をされていることを知って「ぜひ地蔵さんの水を掘ってもらえませんか」とお願いしました。石が多くて苦戦していますが「ここまで来たらやめられない…」と執念を燃やしておられます。

場所は、かつて六地蔵さんが立っておられた所でもあります。「ここのお地蔵さんは、目を治してくれる」という言い伝えを、子どもの頃に聞いたことがあります。この六地蔵は、先代の住職が無縁墓を整備した際に、弁天堂の後ろに移築されました。その際に一つの地蔵さんの胴体が行方不明になってしまいました。それが平成二十年、二度目の無縁墓の整備の際に、掘り上げた土の中から発見されたのです。さらに胴体がつなげられて仮置きされていた地蔵さんが引っ張ったかのように、台風のため根こそぎ倒れた「カクレミノ」の樹から、ご縁がかさなって涅槃像が制作されてゆきました。すべてが、井戸を掘ってもらっている場所で起きたことです。

また地蔵堂には、加藤仁志さん制作の十一面観音像と廣目天が祀られています。この二つの仏像は、健康診断で見つかった私の初期症状の胃癌らしき塊が、翌日の日赤の再検査で全く消滅していた日に届けられた仏像です。まるで「身代わり」になってくれたように…。

辻井さんの手で水が出たら、水質検査を行い、飲料水としても利用できることを確かめたうえで、皆さんに案内して、どんどん飲んでいただく、さ湯でいただくのが良いかもしれません。また神様、仏様に備えていただき、目につけてけていただいたりといろいろと利用していただくことで、様々なご利益を得ていただきたいと思います。これからお念仏信仰を支える地蔵信仰を、ますます発展させていきたいと願っています。

10月の行事予定

５日（水）	写経会	午前１０時～
１２日（水）	落語会「いちご亭」 南遊亭栄歌・安楽亭東風	午後７時～　一会館にて 無料　おひねり歓迎
１９日（水）	健康教室　歩き方教室 講師　馬場久美子先生	午後１時～３時 参加費　５００円
２６日（水）	地蔵講 男性詠唱隊	午後１時半～３時 午後７時～８時半
１日・１５日（土）	絵画サロン 講師　山寄淑子先生	午後７時～８時半 一会館にて 参加費１回５００円
３０日（日）	下小俣念仏行脚・ 第１４回　大念仏	午前９時～念仏行脚 午後１時～大念仏
８日・２２日（土）	英語歌クラブ 講師　八木和美先生	午後１時～３時　一会館にて 参加費１回　５００円 テキスト月　５００円
１３日（木）	ともいき英語サロン 講師　三浦邦昭先生	午前１０時～１１時半 午後１時半～３時 一会館にて　参加費１回１０００円
１４日・２８（金）	茶道教室 講師　河井宗恵先生 樋口宗恵先生 田島宗紀先生	午後７時～子供茶道教室 ７時半～大人茶道教室 大人５００円　一会館にて

慶蔵院豆知識㉖

お彼岸も無事に終わり、心地よい青空を望みたいのですが、巷では集中豪雨に土砂災害と怖いニュースが報じられています。地球温暖化に拍車がかかり、環境破壊に歯止めがかからなくなってしまっている事態を前に、私たちに何ができるというのでしょうか。

お彼岸の入りから明けまでの七日間、お念仏を称えて極楽への往生を願います。此岸である迷いの世界から、彼岸である悟りの世界へ渡っていきたいと、心から願う法要が彼岸会です。

境内にも、時期を違うことなく彼岸花が咲きだしました。あいにくの豪雨によって折れてしまったものもありますが、周りを明るく染めています。桓武天皇の時代から始められた彼岸会法要も、自然の摂理の中に咲く彼岸花も、私たちに、大切なことを示してくれています。まだ足りない、まだ足りないという不平・不満ではなく、「充分と思い日々暮らす」ことからの出発が大切と、改めて思っています。菜根譚は、教えてくれます。

「冷静な目で人を観察し、冷静な耳で人の言葉を判断し、冷静な感覚で物事に触れ、冷静な心で道理を考えよう、愛情豊かな人は、その心も広やかで、その幸運はいつまでも続き、何事を行うにも寛容な精神を貫いていく」と。地球環境にも我が心にも、根気よく「彼岸」を求めていきたいものです。

（栄子）

おしらせとおねがい

浄土宗新聞を無料でお渡しします！！

10 月号読みどころ

9 ページ　「あの言葉に想う」のコーナーです。

ホームレス支援や子ども食堂を全国に広げる活動をしている湯浅誠さんが登場。「見えないことは無視につながり、関心は尊重につながる」という言葉を紹介しています。関心がないと視界に入っても脳まで情報が届かないので、結局は無視してしまうことになるというのです。人の人生に関心をもって話を聞けば聞くほど共感が生まれます。子ども食堂は「現代版大家族」、地域全体で子どもを見守ろうという取り組みです。お節介おばちゃんの出番です。もともと人が集まる場所であったお寺こそ、地域に果たすべき役割があるはずと、みんなで知恵を出し合って、初めの一歩を踏み出す必要があるのではないか…と問題提起してくれています。

欣浄寺基金へのご支援ありがとうございました!!

欣浄寺復興基金、全国支援の訴えと合わせて、大念仏でお世話になっている念仏道場、比叡山坂本にある松禅院の雨漏り修繕寄付の訴えも届きました。二つの寄付を護持会費で賄うことははばかれます。寺世話人五役のみなさんに相談、本堂の賽銭箱を開けて、金額を数えていただきました。お賽銭の総額は、124,470 円ありました。そこで先ず、松禅院修理寄付に 10 万円の支出を決定。残金の 24,470 円は欣浄寺寄付に回すこととしました。今回新規にご寄付いただいた方々の総額が 24,500 円。護持会費より 10 万円を支出させていただき、欣浄寺基金には総額 **148,970 円** を寄付させていただくことになりました報告させていただきます。ありがとうございました。

恒例の秋の行事

「大念仏」にご参加下さい

下小俣念仏行脚　10 月 30 日（日）9 時～

第 14 回大念仏　10 月 30 日（日）1 時～4 時半

参加費無料で、申し込みは必要ありません。

落語会「いちご亭」

無料です

（面白かったらおひねりをお願いします！）

第2水曜　十二日　午後7時～

慶蔵院「一会館」にて

出演　法話　慶蔵院住職　[illegible]

住職の健康回復への道のり　（九）

九月一日、日本語の先生方と一会館の掃除、押入れの整理を行いました。八年間にわたるベトナム中高校生が残した作文集、資料。てらこや交流広場でのバザーの売れ残りの品、座布団、家具類から調度品まで、まる一日かかりました。「ごくろうさんでした…」。打ち上げに夕食を…と、久しぶりにたくさんの刺身料理をいただきました。別にお腹をこわしたわけでも調子が悪くなったという自覚があったわけでもありません。ところが…

二日は金曜日、八尾の日です。この日は最初に一階のクリニックで血液検査の採血がありました。二階に上がり施療。私のお腹に手を当てた、かなこ先生が一言。「あれ、どうしたんですか」。「食べ過ぎていますか…」と応えると、「さぁー、どうでしょう」…。原因は自分で考えなさいというわけ…厳しいのです。今度は院長先生、同じように「このお腹、どうしました」と。実は昨日、刺身をたくさん食べました…。経過を話すと「それやぁー。仕事をして身体が疲れているときは、それ以上に内臓は疲れているということを覚えておいてください。自分の感覚でわかるように…」

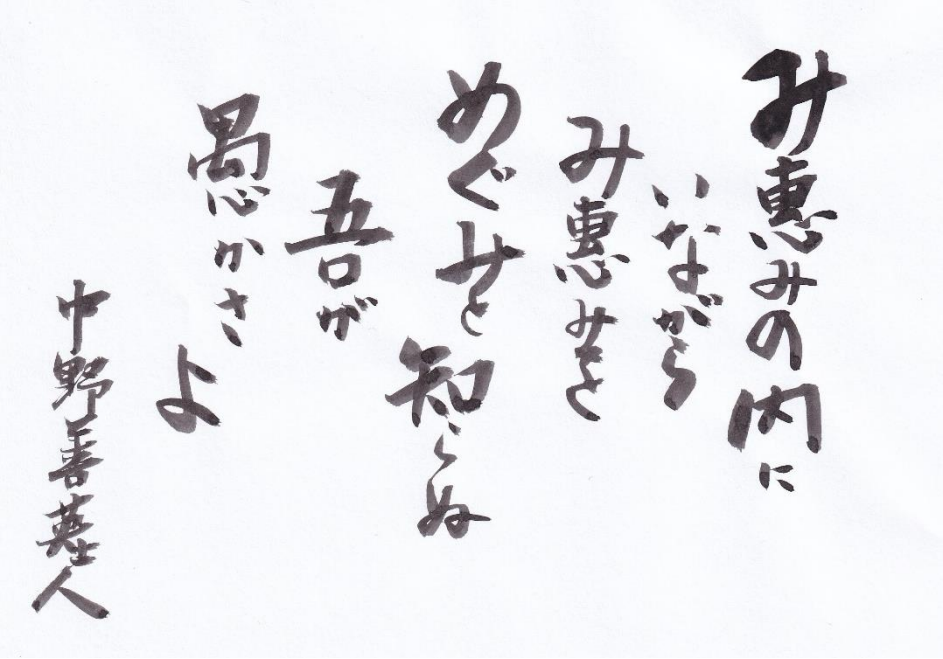
六日、火曜日。血液検査の結果が出ました。結果は最悪。腎臓の数値も肝臓の数値も基準オーバー。尿酸値は10。一日で、この結果。考えてみれば、これまでずーっとこんな食べ方を繰り返し、身体に負担をかけてきたのです。その結果が病気となってあらわれる…。反省。

先人を敬い功徳の盆踊り

奥田　悦生

（「知恩」誌十月号「柳壇」に掲載）

一味誌再々刊　　第 33 号



秋彼岸法要でお話しさせていただいたことなのですが、改めてとりあげます。坂村真民氏に「念ずれば花開く」という有名な言葉があります。この言葉をどのように受けとめていけばよいのか…私はこのようにうけとめさせていただいたのですが、いかがでしょうか…という話でした。

枯れかけた花がある。一生懸命に念じて祈ったら、元気になって花が咲いたというのではおかしなことになるだろう。祈ることの大切さを否定しているのではない…むしろこの時代だからこそ、もっと祈り・念じなければならないと思っている…。マザーテレサの病む人々への祈りの「慰謝のちから」が、どれほど大きな救いをもたらしてくれたことか…、事実が雄弁に物語っています。祈りで病気が治ったのではない、しかし、祈りによって病気から救われたのです

仏を念ずれば仏が念じ返してくれる…。仏を拝めば仏が拝み返してくれる…、念ずれば仏の「ちから」「ひかり」をいただいて、「信心喚起の時至り、心の開けとはなりぬべし」と、私たちの心が開かれていく…これまでの真っ暗闇の中にあった心に明かりがともり、私の心に花が咲く…これが真民氏の言いたかったことなのではないでしょうか。

横井久美子の歌は「祈り」の歌でもある。この祈りの歌が世界中人々の祈りとなり、願いとなって広がっていくとき、世界は戦争の愚かさに気づかされ、目を覚まし救われて、心に花を咲かせることになるのではないでしょうか。世界中の人々は同じ空の下に、平等に「いのち」をいただいているのですから。

横井久美子は歌います。

「渇いた世界　乾いた微笑み　足を吹き飛ばされた子どもたち　渇いた未来　これいじょう　殺さないで　子どもたちに平和な日々を　同じ空　同じ子ども　同じ空　同じこども」

（同じ空　同じ子ども）

慶蔵院ホームページ：http://www.keizouin.com/　をご覧下さい